

# The way is open where there is a will

～意志あるところに道は開ける～

キャリア教育部通信 第4号

令和8年7月1日

中学生の皆さんへ

キャリア教育部

期末考査が終わり、8月末までに自分の将来のことを考える時間がたくさんあります。今回は、将来のことをしっかり考えてほしいと思い、「AI・ロボットの進化」をキーワードにAIに聞いてみました。以下がその内容です。

AIやロボットの進化は、現在「AIが画面の中から現実世界へとはみ出す」大きな転換点を迎えています。これまでは「AIは考える人、ロボットは動く機械」と分かれていましたが、近年は両者が融合した「フィジカルAI」という概念が主流になりつつあります。

今後の見通しを3つの時間軸で整理しました。

## 1. 短期的な展望（～2026年）：AIエージェントの普及

まずは、AIが私たちの指示を待つだけでなく、自律的に考え、複数のステップを実行する「AIエージェント」として社会に浸透します。

・「考える存在」から「動く存在」へ

2025年から2026年にかけて、AIが企業の業務を自らこなす「労働力」の一部になり始めます。

・マルチモーダル化

テキストだけでなく、画像、音声、動画を同時に理解する能力が標準となり、人間とのコミュニケーションがより自然になります。

## 2. 中期的な展望（2030年前後）：人型ロボットの社会実装

2030年頃には、特定の現場で自律的に動く「汎用的な人型ロボット」のプロトタイプが実用化される見通しです。

・労働不足の解消

日本のような少子高齢化社会において、工場、物流、介護、病院などの現場で、人間を支援するロボットが本格的に導入されます。

・フィジカルAGI

2030年代半ばには、物理的な身体を持ち、人間のような幅広い作業をこなせる「フィジカルAGI（汎用人工知能）」が普及し始めると予測されています。

### 3. 長期的な展望（2050年）：人間との共生

さらに先、2050年に向けては、AIとロボットが完全に人の生活に溶け込む未来が描かれています。

#### ・ムーンショット目標

内閣府のムーンショット目標では、2050年までに「人と同等以上の身体能力を持ち、人生に寄り添って成長するAIロボット」の開発を掲げています。

#### ・身体、空間の制約からの解放

遠隔操作アバターを通じて、誰もが場所や年齢、障害の有無に関わらず、どこでも活躍できる社会の実現が期待されています。

この文章を読んで分からない単語があったら、調べればよいのです。AIが分かりやすく解説してくれます。「分からないことがあったらAIに聞く」というのが当たり前になっていきます。2050年、皆さんは何歳ですか。このように変化していく社会の中で生きていくのです。社会の変化を捉えて、その中でどのように生きていこうか、考えることが重要です。今までの価値観が変わり、新しい価値観が生まれていきます。

2030年以降に求められる新しいスキルを二つ紹介します。

#### 1. AIリテラシーと「問い」を立てる力

AIを道具として使いこなし、何を出力させるべきか、その「問い」や「目的」を定義する力です。AIが出した答えの正誤を判断する批判的思考もセットで不可欠になります。

#### 2. ソフトスキル

論理的な正解はAIが出せますが、ステークホルダー間の感情的な調整や、チームのモチベーション向上、信頼関係の構築といった「人間にしかできない心理的アプローチ」の価値が相対的に高まります。

1に関して、

高校では探究活動があり、論文を作成します。その際、AIを活用し、批判的思考を重ね、自分自身でどれだけブラッシュアップできるかが大切になってきます。人に聞くことも大切ですが、AIに聞いて物事を知り、思考を深めていくことが普通になっていきます。自ら学べる人になりましょう！

2に関して、

学校行事や部活動、委員会活動など人と関わる活動が今より重要になっていきます。「人間にしかできない心理的アプローチ」ができる人になりましょう。これは理屈ではなく**経験**です。文化祭や体育祭などで一人一人が意識して、クラスがまとまっていくようにしましょう。